

⑨「ひなたぼっこ」

「ポッカポカのあったかいひとときを」との思いがあふれる「ひなたぼっこ」は11年目に入る。

「大変ですが、参加者が喜んで帰って下さることが、私たちのやりがいになっています」と代表者の稲垣等恵さん。

豊橋市高師校区市民館を会場に、毎月第3水曜日に午前10時半～午後1時頃まで、世話人8人とボランティアスタッフ

12人で運営し、参加者は毎回、約50人という大規模なサロン。参加費は昼食代として500円。

高齢化が進み、一人暮らしの高齢者の不安、気薄になった近隣つきあい…など地域で起こってくる課題に向き合い、「地域の方が安心して触

れ合える居場所があったらいいな」と始

知度の広がりとともに力が重なり、「居場所」が「つながりの

場」になりつつある。訪問した5月17日

てや高齢者の視点は説得力がある。人が触れ合う温かい場をもう1日増やそうと5年前から第

参加者多い地域力「居場所」が「つながりの場」に

まった。

スタッフと一緒に食事の献立作り、手作りのお弁当作り、イベントの企画、その運営まで様々なことに意欲的に取り組んでいる。それを支える多彩なスタッフ、そのペースに認



は豊橋市環境部からの「リサイクルの大切さ」の学習会。4月からの生ごみ収集などについて参加者から次々に質問が出され、それに参加者が答え、市職員が補足していく。ゴミ出しでも、台所を預かる主婦の立場、まし

豊橋で一番参加者が多い居場所「ひなたぼっこ」は、あったかいボランティアアワーで溢れていた。

おたがいさまの

まちづくり

熱心な議論が飛び交う「ひなたぼっこ」の定例会

(伊藤秀昭)